

# 那賀町地域公共交通計画

## 【概要版】



令和5年 3月

那賀町地域公共交通協議会



## 1 はじめに

### (1) 計画策定の主旨

那賀町の公共交通機関はバスが担っていますが、人口減少やモータリゼーションの進展等により、バス利用者が減少し、交通事業者の経営悪化やバスの運行維持に対する財政負担の増大等が生じ、現状のバス運行を維持していくことが非常に厳しい状況になりつつあります。

このような状況の中、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」が改正され、従来の公共交通サービスの改善に加え、自家有償旅客運送・福祉輸送など地域の多様な輸送資源を総動員して地域の移動ニーズに対応し、持続可能な地域旅客運送サービスの提供を確保するための方向性が示されました。

いつまでも安心して暮らせるまちの実現に向け、高齢者や学生等の生活における移動を支える持続可能な公共交通の構築をめざして「那賀町地域公共交通計画」を策定するものです。

### (2) 計画の概要

■ 計画の区域：那賀町全域 ■ 計画の期間：令和5年4月～令和10年9月

## 2 那賀町の公共交通に関する課題

### (1) 町民及び高校生の日常生活を支える公共交通の確保

今後ますます、高齢化が進む中で、住民生活において公共交通の役割が高まることから、町民の生活実態に応じた公共交通網の確保・充実を図ることが必要です。

那賀高等学校への通学にバスが利用されていることから、その維持を図るとともに、サービス水準の向上等を通じて潜在的な需要の顕在化を促すことが重要です。

### (2) 持続可能な公共交通の実現に向けたバス路線の再編

バスの利用者が低迷し、現状の公共交通サービスの維持が困難となり、町の財政負担も大きくなっています。財政負担の軽減を図り、持続可能な公共交通の確立に向け、バス路線の再編を検討していく必要があります。

路線バスの効率的な運行に向けた見直しを図るとともに、川口営業所などの施設の更新等を進めていく必要があります。

路線バスの再編により、公共交通の利便性が低下する地域に対しては、地域の実情に応じた公共交通支援サービス等の移動手段を確保することが必要です。

### (3) 地域の実情に応じた移動手段の確保

本町では、これまで、様々な公共交通支援サービスを提供してきており、町民からも高い評価を得ています。引き続き、地域の実情や住民意向に応じた公共交通支援サービスの維持・充実を図っていくことが必要です。

自動運転車両など、これからの時代に適した新たな交通体系等を検討していくことも必要です。

### (4) 地域で支える体制の確保

バスのサービス水準の維持・向上を図るとともに、全ての町民が地域の公共交通の担い手であるとの意識を持ち、過度な自動車依存を見直し、住民一人ひとりが公共交通の利用機会を増やしていくことが必要です。

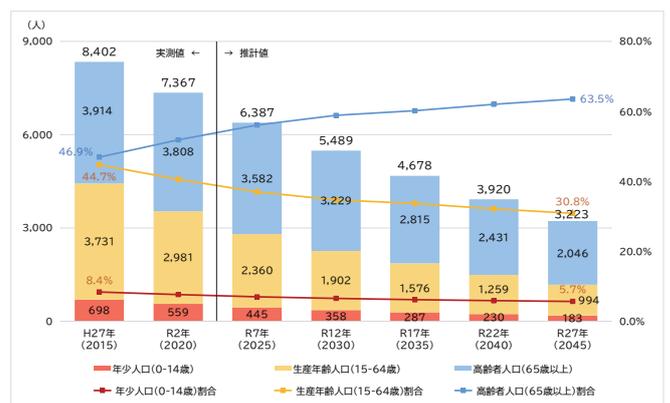


図 那賀町の将来推計人口

(参照：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所)

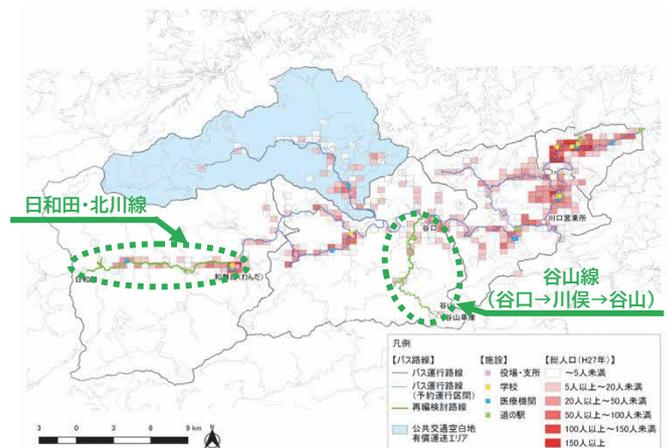


図 那賀町における再編候補路線



## 3 基本的な方針と目標

### (1) 基本的な方針

本計画は、地域の公共交通の望ましい姿を示す、いわば、地域公共交通の“マスタープラン”としての役割を果たすものです。

公共交通に関する課題等を解決し、町民のより良い暮らしの実現に向け、地域公共交通の形成に向けた基本的な方針を以下のように定めます。

## いつまでも安心して暮らせる魅力あるまちの実現に向け、 みんなで支える持続可能な公共交通の構築

人口減少や少子高齢化が進む中で、今後は、高齢者人口（65歳以上）も減少するという厳しい状況が想定され、町民がいつまでも安心して暮らせるまちの実現において、公共交通の役割は重要となっています。一方、利用者の減少等から公共交通を取り巻く環境は厳しい状況にあり、現状の公共交通サービスを維持することは困難な状況にあります。

そのため、本町の地域特性や住民意向を踏まえながら、町民や地域、事業者、徳島県、町等の総動員による持続可能な公共交通の構築を図り、いつまでも安心して暮らせる魅力あふれるまちづくりの実現をめざしていきます。

### (2) 計画の目標

#### 目標1 那賀町の特性に応じた持続可能な公共交通体系の構築

人口減少・少子高齢化の動向や公共交通の役割の高まり等を踏まえつつ、持続可能な公共交通の実現をめざし、公共交通体系の最適化を図ります。

公共交通体系の最適化に当たっては、バス事業者・地域・町等の各主体の連携と適切な役割分担のもと、幹線バス・支線バス・公共交通支援サービスを適切に組み合わせ、町民の暮らしを支える那賀町ならではの地域公共交通体系を構築します。

#### 目標2 誰もが使える、使いたくなる公共交通サービスの向上

公共交通体系の最適化の取組とあわせて、各種公共交通サービスの乗り継ぎ利便性の向上、待合環境や情報提供等のサービスの向上に努め、町民や訪れる人の誰もが使える、使いたくなる公共交通の確立をめざします。

#### 目標3 地域のみんが公共交通を支える仕組みづくりの構築

町民の一人ひとりが、過度な自動車依存の見直しを行うとともに、地域全体で公共交通を支えるといった意識醸成を促し、公共交通の利用促進等につなげていきます。



# 那賀町地域公共交通計画【概要版】

## (3) 那賀町の公共交通体系の将来イメージ

基本的な方針及び目標の実現に向け、那賀町の公共交通体系の将来イメージを示します。

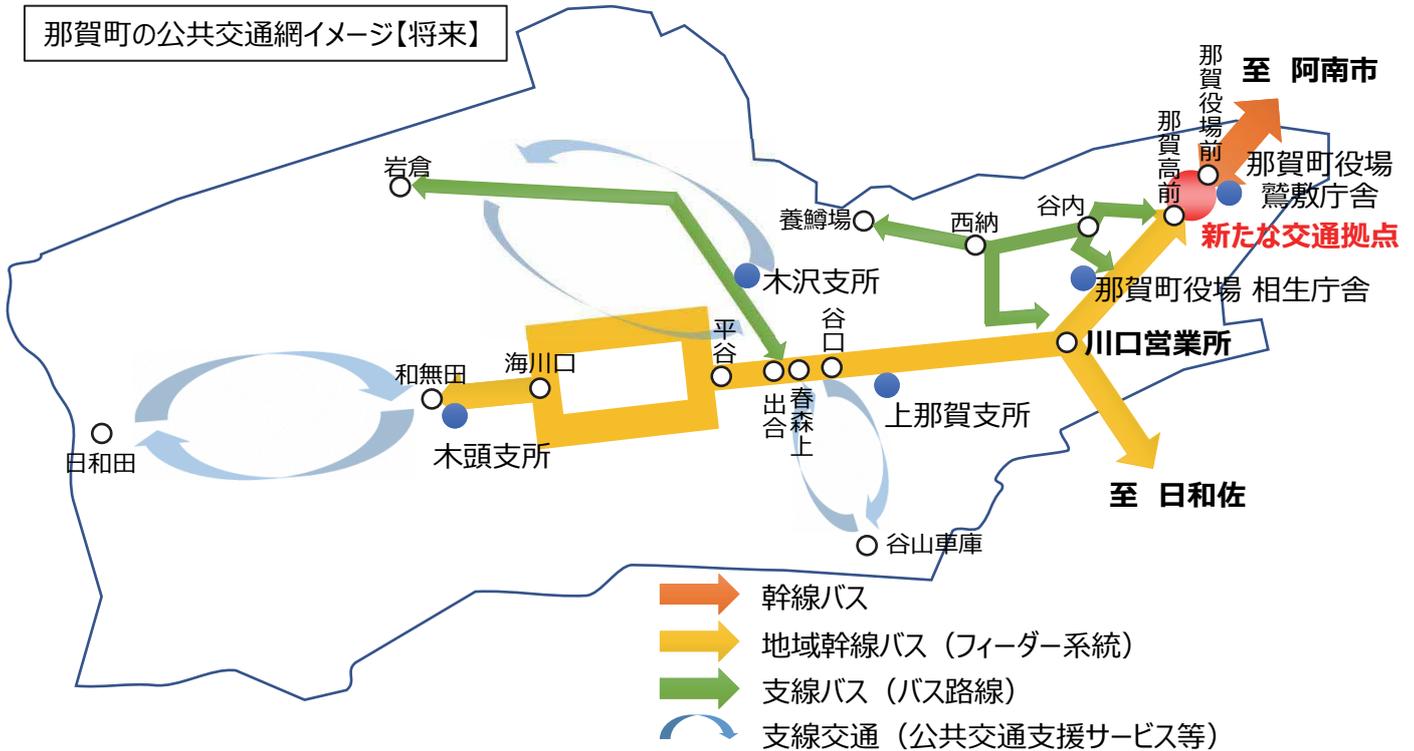


図 那賀町の公共交通体系の最適化イメージ

### (1) 新たな交通拠点の形成

老朽化や職場環境等に問題を抱え、建物の移転・建て替え等が必要な「川口営業所」について、那賀町役場鷲敷庁舎や那賀高等学校等が立地している那賀中心部への移転を行い、新たな交通拠点の形成を目指します。

### (2) 幹線バス・地域幹線バス（徳島バスと徳島バス南部）の役割分担の調整

川口営業所と阿南市を結ぶ幹線バス路線、及び、川口営業所から西側や美波町日和佐方面に向かう地域幹線バス路線について、運行区間の見直し等により、新たな交通拠点を発着点とする幹線バス路線の形成を目指します。

地域幹線バスの維持に当たっては、交通事業者や地域住民等と連携した取組により利用者の維持・拡大に努めるとともに、地域公共交通確保維持事業（フィーダー補助）等を活用し、運行の維持を図ります。

### (3) 地域幹線バスの再編

持続可能な公共交通としてバス路線の再編は不可欠であり、利用者が低迷している谷山線と日和田・北川線の存廃を検討します。

### (4) 支線バスの維持・再編

町営バスについては、町民の貴重な移動手段としての維持を基本とし、利用状況を踏まえて車両の小型化等による無駄の少ない公共交通のあり方を検討します。

### (5) 支線交通（公共交通支援サービス等）の維持・充実

幹線バス・地域幹線バス・支線バスの再編の動向を踏まえて、各地域の実情にあわせた公共交通支援サービスの維持・充実を目指します。

また、医療機関バス・包括ケアセンター送迎バス、スクールバス等は、路線バスが運行していないルート・時間における一般混合乗車化の検討など、運行の効率化をめざした見直しを図ります。



## (4) 目標等の達成に向けた施策体系

計画の目標や公共交通体系の将来イメージの実現に向け、下記に示す施策体系等のもと、計画的・効率的な事業等の推進を図ります。

いつまでも安心して暮らせる魅力あるまちの実現に向け、みんなで支える持続可能な公共交通の構築

### 目標1 那賀町の特성에応じた持続可能な公共交通体系の構築

①町中心部での公共交通拠点の形成	町中心部での公共交通拠点の形成
②路線バスの最適化	交通拠点の移転に伴う路線バスの再編
	利用者の少ないバス路線の最適化の検討
	町営バスの最適化の検討
③公共交通支援サービス等の維持・充実	高齢者福祉特定回数割引乗車券・タクシー移送の維持・充実
	地域特性等を踏まえた公共交通支援サービス等の検討
	医療機関バス・スクールバス等の最適化の検討
	新たな移動手段の導入に向けた調査・研究

### 目標2 誰もが使える、使いたくなる公共交通サービスの向上

④つながる公共交通の実現	路線バスの最適化にあわせたダイヤの見直し
	キャッシュレス決済システム等の導入に向けた調査研究
⑤主要バス停等における待合環境の向上	町中心部の公共交通拠点における待合環境の改善
	主要バス停等における待合環境の整備
⑥公共交通の分かりやすい情報発信	分かりやすい路線情報等の提供
	公共交通支援サービスに関する情報提供の充実

### 目標3 地域みんなが公共交通を支える仕組みづくりの構築

⑦新たな需要の創出	高校生等の公共交通の利用促進
	公共交通の利用促進に向けたイベント開催
	観光振興等と連携した利用促進施策の検討
⑧マイバス意識の向上	バスの維持・存続に向けた周知・啓発
	町民懇談会等の開催



## 4 目標達成に向けた施策・事業

### 目標1 那賀町の特性に応じた持続可能な公共交通体系の構築

#### ① 町中心部での公共交通拠点の形成

##### 事業①-1 町中心部での公共交通拠点の形成

老朽化や職場環境等に問題を抱え、建物の移転・建て替え等が必要な「川口営業所」について、那賀町役場驚敷庁舎や那賀高等学校等が立地している那賀中心部への移転を行い、新たな交通拠点の形成を図ります。



図 川口営業所

#### ② 路線バスの最適化

##### 事業②-1 交通拠点の移転に伴う路線バスの再編

新たな交通拠点の形成を踏まえ、川口営業所を発着地としていた路線バス（徳島バス、徳島バス南部）の運行区間の見直しを図ります。

##### 事業②-2 利用者の少ないバス路線の最適化の検討

持続可能な公共交通としてバス路線の再編は不可欠であり、利用者が低迷している谷山線と日和田・北川線の存廃を検討します。

##### 事業②-3 町営バスの最適化の検討

町営バスについては、町民の貴重な移動手段としての維持を基本とし、利用状況を踏まえて車両の小型化等による無駄の少ない公共交通のあり方を検討します。

#### ③ 公共交通支援サービス等の維持・充実

##### 事業③-1 高齢者福祉特定回数割引乗車券・タクシー移送の維持・充実

本町では、全町的な公共交通支援サービスとして、高齢者福祉特定回数割引乗車券、外出支援サービス（タクシー移送）に取り組んでいます。利用者の評価等も高いことから、「高齢者福祉特定回数割引乗車券」と「外出支援サービス（タクシー移送）」の維持・充実を図ります。

##### 事業③-2 地域特性等を踏まえた公共交通支援サービス等の検討

木沢地区では、公共交通空白地等における移動の支援のため、「公共交通空白地有償運送事業（ボランティアタクシー）」に取り組んでいます。利用者の評価も高いことから、その維持・充実を図ります。

また、路線バスの再編（谷山線、日和田・北川線、町営バス）により、公共交通空白地が生じた場合は、地域特性等に応じた公共交通支援サービスの導入を検討します。

交通空白地有償運送事業		木沢地区ボランティアタクシー
本沢地区はバスやタクシーなどの公共交通機関を利用することが困難な地域です。そこで、住民の社会参加促進及び交通空白地解消を目的として「ボランティアタクシー」を実施しています。		
利用対象	本沢地区在住の方で、事前に会員登録された方に限り利用可能。	
登録料	1人 1,000円（年会費）	
利用料	1kmあたり 130円、本沢地区外への迎車料金 500円、待料金 30分ごとに 100円。	
利用可能範囲	本沢地区内・上部養病院・阿南豊協那賀西部支店・お山のクリニック	
利用方法	お電話または事務所（社協本沢支所）にて予約受付を行い、登録運転手が予約日時に送迎を行います。登録運転手（第2種運転免許保有者、または第1種運転免許を有し国土交通大臣が認定する講習等を修了した者）は、登録車両を使用して運送します。	
		令和3年度の実績 ●登録会員(利用者) … 52名 ●登録運転手 … 7名 ●運行実績 … 397回

図 ボランティアタクシー  
(参照：那賀町社会福祉協議会資料)

##### 事業③-3 医療機関バス・スクールバス等の最適化の検討

医療機関バス、包括ケアセンター送迎バス、スクールバスは、路線バスが運行していないルート・時間における一般混合乗車化の検討など、運行の効率化をめざした見直しを図ります。

##### 事業③-4 新たな移動手段の導入に向けた調査・研究

全国で実証実験が行われている自動運転バスをはじめ、新たな移動手段の導入可能性についての調査・研究に努めます。



## 目標2 誰もが使える、使いたくなる公共交通サービスの向上

### ④つながる公共交通の実現

#### 事業④-1 路線バスの最適化にあわせたダイヤの見直し

新たな交通拠点の形成や路線バスの最適化等の取組を踏まえながら、徳島バス、徳島バス南部、町営バスの乗り継ぎ地点における、乗り継ぎの待ち時間の短縮等の調整に向け、ダイヤの見直し等に努めます。

#### 事業④-2 キャッシュレス決済システム等の導入に向けた調査研究

利用者の利便性を向上し、運賃の支払いをスムーズに行うことのできるキャッシュレス決済システム等の導入に向けた調査研究に努めます。

### ⑤主要バス停等における待合環境の向上

#### 事業⑤-1 町中心部の公共交通拠点における待合環境の改善

川口営業所の老朽化等に伴う新たな公共交通拠点の整備に当たっては、利用者が快適に利用できるよう、待合環境の整備に努めます。

#### 事業⑤-2 主要バス停等における待合環境の整備

徳島バス、徳島バス南部、町営バス、公共交通支援サービス等の乗り継ぎを行う主要なバス停等について、地域住民との協働のもと、待合環境の充実に努めます。

### ⑥公共交通の分かりやすい情報発信

#### 事業⑥-1 分かりやすい路線情報等の提供

新たな公共交通拠点の整備や路線バスの最適化等に伴い、路線の変更やダイヤ改正等が行われることが想定されます。町の広報やホームページ、CATV、主要バス停における分かりやすい時刻表等、多様な手段を活用し、町民や来訪者等の公共交通利用者への情報提供の強化に努めます。

#### 事業⑥-2 公共交通支援サービスに関する情報提供の充実

公共交通支援サービスの認知度は、必ずしも高い状況ではないことから、町民の貴重な移動手段として積極的な情報発信を行い、公共交通支援サービスの利用を促します。



図 主要な乗り継ぎ拠点

## 目標3 地域のみなが公共交通を支える仕組みづくりの構築

### ⑦新たな需要の創出

#### 事業⑦-1 高校生等の公共交通の利用促進

高校生の通学におけるバス利用の潜在的な需要が見受けられることから、新たな交通拠点の整備等とあわせて、高校生のバス利用の促進に向けた啓発等に取り組めます。

#### 事業⑦-2 公共交通の利用促進に向けたイベント開催

県や運行事業者等との連携のもと、公共交通の利用促進イベントや啓発活動等に取り組み、町民の公共交通利用等を促します。

#### 事業⑦-3 観光振興等と連携した利用促進施策の検討

観光振興や地域振興に関わる取組等と連携し、バス利用の機会創出等を図り、公共交通利用のきっかけづくりに努めます。

### ⑧マイバス意識の向上

#### 事業⑧-1 バスの維持・存続に向けた周知・啓発

持続可能な公共交通の実現には、町民一人ひとりが地域の公共交通の担い手であることの認識を高めることが重要です。そのため、地域公共交通に関する積極的な情報発信に努め、過度な車社会からの脱却を図り、公共交通の利用を促します。

#### 事業⑧-2 町民懇談会等の開催

町民や地域、交通事業者、町等が、公共交通に関する意見を述べ、情報交換等を行う場として、町民懇談会等の開催機会を確保します。



図 高の瀬峡



図 地域公共交通協議会



## 5 計画の推進と進捗管理

### (1) 評価指標

各種の施策・事業の推進を図り、本計画に掲げた計画目標の実現に向けた取組の達成状況を定量的・客観的に評価することを目的として、評価指標を設定します。

期待される効果	数値指標	数値目標	
		現況	将来
町民等の公共交通（路線バス）利用の増加	町民等の公共交通の利用者数 【徳島バス：年間輸送人員】※	64,508人 (R3)	<b>58,000人</b> (R9)
	町民等の公共交通の利用者数 【徳島バス南部：年間輸送人員】※	37,833人 (R3)	<b>34,000人</b> (R9)
	バスの利用率 →住民アンケートで年数回でも利用する比率	20% (R4)	<b>25%</b> (R9)
利用促進と運行の効率化による運営の改善	公共交通事業の収支【徳島バス南部】※	-53,277千円 (R4)	<b>-73,000千円</b> (R9)
	公共交通関係決算額（歳出）	65,586千円 (R3)	<b>70,000千円</b> (R9)
住民の公共交通利用環境の向上	公共交通カバー率	88% (R4)	<b>90%</b> (R9)
	公共交通の満足度 →住民アンケートで公共交通の総合評価として満足している傾向を回答する比率	15.4% (R4)	<b>20%</b> (R9)
住民の公共交通に関する意識高揚	公共交通支援サービスの認知度 →住民アンケートで「知っているものはない」を回答する比率	33.7% (R4)	<b>30%</b> (R9)

※路線の再編等に伴い、走行区間や距離等の変化が生じる可能性があることから、目標値の評価・検証の際には、現況の走行区間や走行台キロ等を踏まえることとする。

### (2) 計画の推進

#### ① 関係機関の適切な役割分担と連携の強化

本計画の推進に当たっては、町、県、国、交通事業者、関係団体、地域、町民等の関係機関が、それぞれの役割を担うとともに、連携・協働して取組んでいきます。

#### ② 公共交通の維持に対する国の支援策等の活用

地域公共交通の維持に対する国の補助事業（地域公共交通確保維持事業等）等の活用を図りながら、必要な路線の確保・維持に努めます。

#### ③ 進捗状況の評価・検証

計画の着実な推進に向け、評価指標を基に、PDCAサイクルを運用しながら、進捗管理を行い、効果的・効率的な事業展開を図るものとします。



図 計画のPDCAサイクルに基づく進捗管理イメージ

## 那賀町地域公共交通協議会

【事務局】 那賀町役場 〒771-5295 徳島県那賀郡那賀町和食郷字南川104番地1